

学校プロジェクト報告書（1年目）

学校名	新潟市立木戸中学校
校長氏名	中野 民生

1 学校紹介

(1) 地域とのつながり

現在、地域の自治会組織は成熟し、学校への協力体制も十分整備されており、良好な関係を築いている。さらに、学校運営協議会の設置により、コミュニティ・スクールとして地域と一体となった教育活動を展開できる状況になっている。

(2) 生徒の実態と課題

そのような環境にあって、生徒の良さは素直さと人なつこさである。集団としての質は年々向上し、授業や行事、部活動等の学校生活も落ち着いた雰囲気を送ることができている。ただ、言われたことをきちんとやろうとする姿は見られるが、自主的に考え自ら行動し、自信をもって自己実現していこうとする意欲を高めていくことが求められる。



社会を明るくする運動

(3) 中学校区における幼小中連携した取組（牡丹山小学校、竹尾小学校、牡丹山幼稚園）

木戸中学校区では、目指す子ども像を「失敗をおそれず 粘り強く挑戦し続け 自信をもつ子ども」として幼小中一貫した取組を推進してきた。この取組において、児童生徒間の支持的風土の醸成を目指し、教職員の実践的指導力を高めるためには、教職員が「傾聴と受容」の体得を重視し、学びの基盤を固める校内研修を充実させることが課題として見えてきた。

2 実践テーマ

児童生徒間の支持的風土醸成を目指し、教職員の実践的指導力を高めるための校内研修
～「傾聴と受容」の体得を重視し、学びの基盤を固める初任者研修の充実～

＜テーマ設定の理由＞ これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てるためには、次の3点が必要である。

- ① 学びの基盤となる、認め合い、助け合い、期待をかけ合い、高め合う温かい集団づくり
- ② ①を達成できる教職員の実践的指導力の向上
- ③ ②を目指す取組として、中学校区にある学校園ぐるみで習得期（第1ステージ＝採用1～5年目および採用後2校目）の教職員の育成を推進する研修体制の充実

そこで、これからの新潟市の教育を担う、所属の習得期の教職員を主な対象として、市立総合教育センターによる初任者研修と併せ、「新潟市教職員の資質向上に関する指標」を活用しながら、中学校区にある学校園ぐるみで教員育成のための校内研修を進める。この学校プロジェクトの取組により、教職員が実践的指導力を高め、一人一人が使命感をもって教育活動に臨むことができれば、これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもの育成につながると思った。

3 実践内容

(1) 人権教育・同和教育研修（校種間連携：幼小中合同研修）

県立環境と人間のふれあい館より講師を派遣してもらい、オンラインで実施した。その際、初任者を中心として編成したグループのみ講師との対面講義にしたことで、グループ間での対話が活発に進んだ。



小中連携事業 分科会

(2) 道徳研修（学校間連携：初任者研修を補完する研修）

初任者研修拠点校指導教員の提案により、山の下中、新津第一中の初任者と当校の習得期の教職員および有志が集い、高志中等教育学校のベテラン教員の協力を得て、今年度学級担任をしていない初任者による「道徳科」の模擬授業研修を行った。授業以外にも、普段できない一人一人の「思い」や「悩み」について話す機会をもつことができた。

4 成果と課題

参加者の研修に臨む姿勢や研修後の聞き取りから、校種間連携や学校間連携の取組が、教職員の実践的指導力向上に繋がってきており、『生きた研修』となっていることが実感できた。

2年目は中学校区の学校園の間で「交流授業参観」をさらに進め、お互いの子ども観や教育観を語り合う場を定期的に設定するなど、テーマの実現に向けた発展的な取組を推進していく。